

明治四年辛未十一月



萬國新聞

第四號

東京書林

北畠兵衛
山中市兵衛



18
115
4



萬國新聞第四號

シヤパンガゼツト新聞第千八百八十六號

明治四年辛未年十月八日刊行



二週以前故のユスモポリート蘇州の港支那の海岸に赴
らむとして藝州の港より蒸氣を揚々し時俄に其一漁甌破
裂となり遂に用を絶らるる沈没者ともれぬ其時船中より乗組居
る者四十人不幸ありて即死したる然れども此事未だ表
向り發せしユスモポリート船ハ六七年以前肥後侯の長女
藝州へ嫁せし後凡そ六ヶ月を経て肥後より藝州のりウテ

ナシテゼネラル。諸名漢朝の備好へ贈りし船なり此贈物甚
ち廣大の物なるとも此度破裂したる事を思へハ亦大に貴
き物を買ひあるに當る而已なり次幾多の眷屬被損亡せり
甚ち怖るべき事なれ

○
明年より外國人の爲め京都と互市場を開らむと乃風説京
都大坂に流布せり此風説ハ京坂の商人等多く慥ふ語也
然れに同所商人の内或ハ外國人來るを支へむと用意し
たり者ある由被聞たり鐵道局に於て鐵道被造營は此事ハ
京師より大坂まで止まらば兵庫及び神戸も引くべき

由神戸にて布告ありしこの風聞なり此風説ハ虚實未だ詳
きらばと雖も吾輩此説の實ならん事被希望し

○
頃日日本蒸氣船横濱より神戸を行く途中にて破裂し船中
の人盡く死せりと聞くと是迄日本人器械に注意を次して非
命に死したる人多かりしか猶も此度の破船みて蒸氣船に
爲めり非命の死を遂ぐ者被數を増したり

○
造幣局よりハ猶も引續き金銀貨幣被鑄造は其數一日より七
萬圓に至ると云ふ其内多くハ金圓被鑄造はとなり

○
福山に於て一揆の風聞あり農民等武器を携へたりと云ふ
此一揆の趣意を此度政府の改革に付き舊知事を東京に住
居せしむはの命令によつて國民騒動とし由なれば此度の大
改革の素よは大業なきは戯作の説の如く容易く行はるる
事非に非次諺より曰沙彌あら長老も成程難しと必次動搖も
あらはれは一時は數百年固結の風俗を改むる事實も難ら
はし

○
兵庫北町に立派なる煉化石造の土藏建並ひあり是迄外國

人の土藏ら又は政府の土藏も非次しは是の如き立派なる
煉化石の土藏を見る事とし此地にては好き煉化石及び
建築に用ひべき良石あるを以て此地の北方に在る近國に
ては尤も便利なり東京横濱を合せて煉化石の土藏は既に
有りや否や疑らくは未だ之有らざるへし東京横濱にては
相應なる建家も用ひるは石も大抵良石も非次或人思へら
く當地の尤も大なる日本船多かれは煉化石御影石其他建家
に用ひべき良石を積み北方に輸出せし善き商法なればし

明治四年辛未十一月十一日刊行

島原廓今度他所へ引移に成りあり而して以前の大名出府
に於分住所なき者ハ其跡地へ假家を建る由を察
肥前及び佐土原の二縣を以來政府に属し其貢税を納る由
土佐阿波加賀越前及び長州よりの歎願ハ御採用ならりし
併小大名ハ別々何の御沙汰もなく政府へ取上らざるは
兵部省より知事一同備大是迄所持の武器早々差出せらる
事發達せらるなり

以前の諸大名今度政府へ領地位階も取上らる甚究迫なる
より其從者發給暇し而して家附の諸道具を不惜賣拂ひ

其位階の定よりたる間も分配は自由なり

○ ジャパンヘラルド新聞

明治四年辛未十月十六日刊行

鑛道局士官云く兼て建築する處の横道より品川迄の鑛道
凡そ三週の間は開き日々器械を送るべきよし歳暮に近き
故速に用ひて事發望まらるるよし聞て日本に於て鑛道取
立事建築長官の勤勞ふしよハ甚難きよし殆ど信し難ら
れしふ漸く其意を得たり總々充備を好まざるモ一しハ
氏死去より殊に空虛なるよし而して他の建築方を彼

局へ撰出の事の企ふべき様子なり

○
銀圓の價は一割一分の相場に至りしより又二分之下り引續て四分五厘に相場にて今も同し

造幣寮より製造の金銀貨共善價の日に横濱（チリイ）タルバンクよほど何程も買入らるへし外國人の個様なる不都合の物ハ勿論用ひは日本の癡人貯藏の爲め買入るゝる或は夫を賣渡派へき約定爲せし支那人の之を買ふふ

新貨幣ハ日々に價變派る故貿易之甚不都合派生はるハ最

遺憾み堪へばなれば政府にて此價派直に平均せしなると可ならん事必せて若し價定まらばは其不都合貿易の道と及ぶへし

○
ジャパンガゼット新聞

明治四年辛未十月

紐育に在るコンチネンタルバンクノート社中於て日本政府の爲め國內通用金兩個の銅板鑄刻派成就せり勘定ハ各一圓或ハ五圓と名付く一圓ハ即ち合衆國通用金の一元と相同し

○
ピラデルピア鋳造幣寮に於て千方ゴ―鋳にて焼くた原貨
幣を鋳らせり

千方ゴ―鋳に在る副掌計官よ原貨幣を鑄直しの爲めピラ
デルピア鋳造幣寮に於て當月十八日其功を始めし同所
へ到着せし大なる鑛道より貨幣を取出し見究の上卓上に
並ぶるや

書記官ボ―トウエル叙よ此貨幣細密に勘定取らるる事を
差圖せり此事業を成功せし爲めゼ―ムス。ヒ―イ―ストル
叙氏チ―ビ―ジエ―ンス叙氏ウイリナム。エム。ボンケル

叙氏ウイリナム。エム。スチ―ル叙氏シウイ―シ―カウベ
ルツウエ―ト叙氏等明細に辨解せり朝第九字を過ぎ其功
始免し○貨幣を囊より取出取時ハ沙石灰及び焼くた古
切とと共に混合せり總て銀地金の金地よれも容易に鑄解
する物なきを熟氣を順て沈むたは且其鎔るた流質は中に
金種を含めり是ハ器械に非ざるハ容易く分離するを得
るなり金貨を熟氣と水との用方故に分離方甚宜しらら
併し水曜日にて於て查照の者經檢せしと叙總に鑄解し或ハ
鑄直取事をせりして清楚せらるる事を勘考せり是ハ器械
の仕掛にて洗濯する事として鑄解は此事を用るより政府

に於てハ最儉約ナル術ヲ查照セシ貨幣ハ二十元十元五
元二元半及ヒ一元の金貨及半元より以下三仙迄ハ銀貨ヲ
以銅貨ル又見出流ルル是等の貨幣域分別シ或ハ算用流
ル該官ハ水曜日ハ於テ前條に掲載セシ人々之ヲ勤めルル
開匣ヨリ水曜日夜九字半迄に凡二十五萬八千弗の高拔鑄
直シ千カゴ一ニ於テ副掌計官へ渡流ルル

○
米國新聞抄譯

薩哈噠島多魯西亞領地に屬セシ由二三週前ニ傳信機新聞
にて承知セシ今再ハ確報ある日本及ヒ支那の使節ハ各

彼地を保はるる正シキ權利ありと雖モ諸人の案ニ違はレ
魯西亞ハ「プリンスコルトニコウ」論破ハる事を得流ルル
依テ遂ニ薩哈噠島多魯西亞の所屬とされリ支那帝日本大
君及ヒ魯西亞帝此島ヲ争ヒ起リたれ地圖を閱見シテ其
原因を知ルヘシ此島の位地ハ三ヶ國乃領地ニ交接ハル事
幾ト相同シ故に地勢ニ依テ之を觀ルハ其北部ハ魯西亞に
屬シ中部ハ支那に屬シ南部ハ日本ヲ屬スヘシ然レども支
那及ヒ日本政府ハ數百年前トシ此島に植民セテ魯西亞
ヲ植民セシハ之ニ比レシハ近世の事を察今此島魯西亞ニ
屬セシ幾何の然ラシキ所ナルヤ

江戶幕府の成立とその意義

徳川幕府は、1603年に徳川家康が江戸に幕府を開いたことを始まりとする。これは、戦国時代の混乱を経て、徳川氏による統一と安定をもたらした。幕府の成立は、政治体制の根本的な変革を意味し、徳川氏による世襲統治の始まりである。幕府は、将軍を頂点とする階級制を敷き、武士階級を維持し、農民階級を安定させ、士農工商の四民階級を確立した。この体制は、徳川幕府の長きにわたる統治を支えた。幕府は、文化政策として、儒教を国教とし、朱子学を官学とした。また、鎖国政策を採り、海外との貿易を制限した。幕府の成立は、徳川氏による統一と安定をもたらした。幕府は、将軍を頂点とする階級制を敷き、武士階級を維持し、農民階級を安定させ、士農工商の四民階級を確立した。この体制は、徳川幕府の長きにわたる統治を支えた。幕府は、文化政策として、儒教を国教とし、朱子学を官学とした。また、鎖国政策を採り、海外との貿易を制限した。